

報 告 書 (1)

この度は、陽子ひまわり基金の趣旨に賛同し、募金および周りの方々に呼びかけ頂き、誠にありがとうございます。

今回はメールアドレス・ファックス番号を頂いている協力者の方々に陽子の体調と募金状況の中間報告をさせていただきます。皆様がお声掛けをさせていただいた方々へも報告内容の回覧もお願いいたします。

1. 臍帯血幹細胞移植までの経緯

(1) 平成 25 年 8 月～9 月初旬

陽子の体調が急激に衰えていく様子が傍目にもわかる状態に。食べ物を飲み込む筋力が低下する嚥下障害、呼吸を行う筋肉が衰える呼吸障害の初期症状が出現、体力が落ちている状態に。

同時期、瀬戸内出身の陽子の先輩でもある阿部貢三氏のご紹介の医師から「臍帯血幹細胞移植」について家族が説明を受け、医師と面談。効果、費用等について詳細な説明を受ける。

(2) 平成 25 年 9 月第一週。

陽子ひまわり基金設立

陽子にひまわり基金設立の趣旨を説明。家族はじめ多くの支援者が存在することを理解してもらう。陽子が移植を受けることを承諾。

(3) 平成 25 年 9 月 10 日

食事を飲み込むことが困難な程、衰弱していた為、かねてから担当医が進めていた胃瘻手術（口などからの食物・水分の補給が困難な場合、胃壁と腹壁に穴をあけてチューブを取り付け、外から直接胃に栄養剤などを注入する治療法）を受けることを決意。臍帯血移植前に体力をつけ、最善の結果を得たいとの思いから昭和医大に入院。

病院への移動中、久しぶりに青空を見上げることが出来、嬉しそうにしていたとのこと。

(4) 平成 25 年 9 月 13 日 胃瘻手術をせずに退院。

病院の手術室の都合等による。

(5) 平成 25 年 9 月 19 日 **臍帯血幹細胞移植実施**

午後 2 時頃、自宅に京都健康クリニックの坪秀祐医師と防衛大学の医師が陽子宅を訪問して臍帯血幹細胞移植を実施。

血管を通しての移植の為、体力的な負担はなし。

今後は血液等の数値を見ながら経過観察。

(6) 平成 25 年 9 月 22 日 ひまわり基金事務局の吉野が陽子を訪問

- ① 移植前に比べ、声が出て話も長くできる状態に回復し、顔色、血色良し。
- ② 口から自力で食事。
- ③ 胃瘻手術を先延ばししたことが、結果的に良かったと感じている。
(臍帯血の医師も、移植することにより直ちに胃瘻手術をする必要がなくなる可能性を示唆していた)
- ④ 募金者の名前を一人ひとり読み上げ、メール等を読み聞かせ、基金の活動状況を説明。友人、知人、懐かしい方々の名前を聞き、本人に気力が戻り始めていることを感じた有意義な一日でした。

*非常識と思いながらもついつい4時間程滞在。その後の予定がなかったら、まだまだ長居して陽子と話し続けたい一日でした。

2. 募金状況

募 金 総 額 : 2,601,345 円

募 金 者 数 : 298 名

支 払 済 金 額 : 2,000,840 円 平成 25 年 9 月 24 日 東陽子宛「お見舞金」

現 在 額 : 600,505 円 平成 25 年 9 月 30 日 現在

皆様のお力添えに感謝申し上げます。引き続きのご協力よろしく願いいたします。

以上、ご報告申し上げます。

〒150-0011

東京都渋谷区東 3-24-14

(株)ワイスマネージメント内

陽子ひまわり基金事務局

会長：重田 稔仁

倉元 徳仁 090-3498-9422

吉野 由紀子 090-7728-7700